紀　　要

第 9 号

1996. 3

財団法人滋賀県文化財保護協会

目　　次

序
‘廃棄’を考える－貝塚出土資料の検討にあたっての試論－〔鈴木康二〕 …… 1
粟津湖底遺跡第3貝塚の貝類採取活動－セタシジミの成長速度と年齢構成－〔稲葉正子〕…… 11
大津市粟津湖底遺跡出土の錘〔瀬口眞司〕 …… 16
箆状木製品の用途について〔松澤　修〕 …… 25
縄文晩期土器棺墓の調査方法について－近畿地方の場合－〔中村健二〕 …… 38
近江における弥生社会の理解にむけて－その方法と課題－〔大崎康文〕 …… 42
長浜市域における弥生時代の石器－今川東遺跡出土石器を中心に－〔稲葉隆宣〕 …… 51
石組みの煙道を持つカマド－古代の暖房施設試論－〔上垣幸徳・松室孝樹〕 …… 57
集落遺跡出土の鉄製品についての研究ノート〔田井中洋介〕 …… 79
近江へのアプローチ・その3－野洲・栗太をフィールドに－〔近江歴史クラブ〕 …… 85
1．野洲川流域の前・中期古墳について〔鈴木桃代〕 …… 89
2．栗太・野洲における後期古墳の類型的把握
－古墳時代システム論への墓制的アプローチ－〔細川修平〕 …… 94
3．集落遺跡から見た古墳時代の特質－古墳時代システム論への予察－〔細川修平〕 …… 102
4．栗太・野洲郡における掘立柱建物データの抽出と分類〔神保忠宏〕 …… 110
5．近江国の古代駅路と官衙遺跡について〔内田保之〕 …… 122
6．古代における琵琶湖の湖上交通についての予察〔畑中英二〕 …… 130
7．田原道をめぐる二つの地域〔重岡　卓〕 …… 136
8．近江における玉造りをめぐって〔中村智孝〕 …… 149
9．栗太・野洲郡における古代の土器様相〔畑中英二〕 …… 157
10．鉄鉱石の採掘地と製鉄遺跡の関係についての試論
－滋賀県の事例を中心に－〔大道和人〕 …… 164
栗太・野洲郡のまとめ …… 179
大津北郊白鳳寺院の造営計画（その1）〔仲川　靖〕 …… 185
古代遺跡と出土文字資料〔濱　　修〕 …… 200
石山国分遺跡出土瓦の覚書〔平井美典〕 …… 208
巡礼者の宿－鴨田遺跡出土の巡礼札より－〔重田　勉〕 …… 215
焼物二話〔稲垣正宏〕 …… 220
蒲生稲寸氏について－近江古代豪族ノート5－〔大橋信弥〕 …… 224
律令神話に於ける農業神について〔造酒　豊〕 …… 233

日本古代の対外関係史の一様相
　－日本古代史研究ノートあるいは覚書その２－〔芝池信幸〕 …… 238
遺跡の撮影〔阿刀弘史〕 …… 243
新聞報道にみる文化財保護25年－新聞記事データベースの作成と利用－〔中川正人〕 …… 252

新聞報道にみる文化財保護25年

－新聞記事データベースの作成と利用－

中　川　正　人

はじめに

全国的に遺跡（埋蔵文化財）の発掘調査が増加し始めた70年代前半、滋賀県においても開発に伴う遺跡の調査件数が多くなっていった。そうした流れのなかで、遺跡の発掘調査が新聞報道を通して一般の人々の目に触れ、関心がもたれる機会も増えていった。

遺跡の発掘調査などに関する新聞報道では、「･･･ が出土」、「全国で初の ･･･」、「最古の ･･･」といった活字が全国版、地方版紙上の文面を飾るいわゆる大発見の報道もいくつか見られる。一方、十分な現地説明会、新聞発表もなしに人知れず埋め戻された遺跡は数知れない。

本年度、財団法人滋賀県文化財保護協会が設立25周年を迎えた。この契機に県内の埋蔵文化財調査の進展をさぐる意味で、過去27年間(1968年～94年)におよぶ新聞報道の記事を基本データとして収集整理し、その四半世紀をふりかえってみるのも少なからず意義のあることと考える。

本稿において、県内の埋蔵文化財に関連した新聞記事を集計した、「滋賀県埋蔵文化財関連新聞記事データベース」(以下、新聞記事データベースと略す)の作成と、その検索システムの使用による統計の結果を考察する。さらに新聞報道と発掘調査に関連するさまざまな問題点、課題について述べる。

1．新聞記事データベースの作成の目的と利用法

(1)　新聞記事データベースの元資料は、毎日配送される新聞社各社の朝刊の埋蔵文化財に関連した記事の切り抜きである。1980年以前の切り抜き記事は、県教委文化財保護課保管分より、80年以降は県埋蔵文化財センター保管分よりカード化した。これらの記事は、同じ日付に同じ記事内容で、かつ複数の新聞社の記事を含んでいるが、過去27年間(1968年～94年)でのべ1715件にのぼった。これらの記事内容を以下の要領でカード化し、コンピュータ入力した。

記事データの内容を、見出し(タイトル)、副題(サブタイトル)、遺跡名・調査名、市町村名、時代、新聞社名、日付、担当者・関係者の８項目を基本として拾い読みしデータ入力した。さらに、５つのキーワードを各記事ごとに拾い検索の合理化を進めた。なお、厳密なデータベースの構築には、記事全文あるいは抄録と写真、図なども電子可読化し、利用者の便宜をはかるべきであるが、コンピュータのハードウェア上の制約や著作権等の問題もあり、現在はその雛形(サンプルイメージ)の試作にとどまっている(図-1)。状況が整えば、検索システムをともなった記事情報の画像データベースをCD-ROMを媒体として提供可能となる。

記事データベースの利用法として、まず遺跡ごとの記事の内容を調べるため検索システムを利用することがあげられる。また、同検索ルーチンの利用により、たとえば「紫香楽宮」と検索条件を入力することにより、「紫香楽宮」を含む文字列で全新聞記事の情報からそれに該当する記事情報が返される。こうした検索条件でヒットした記事一覧は印刷も可能である(表-1)。

2．新聞記事データベースの統計分析からみた文化財情勢

(1)掲載新聞社　切り抜き記事の各新聞社ごとの件数は全国版、地方版を含めて、京都新聞 478件、朝日新聞 391件、毎日新聞 367件、読売新聞 265件、サンケイ新聞88件、滋賀日々新聞72、中日新聞53件の順になっている。京都新聞は地元に密着したきめ細かな記事が多く、中日新聞は湖北、湖東地方の内容が充実している。

(2)掲載年別統計　掲載年別にみる統計グラフ(図-2)からみて、70年代は発掘件数の増加にともない記事件数も増加する傾向にある。82年から発掘調査件数が記事件数を大きく上回り、90年代に入ると記事件数が発掘調査件数を上回る逆転現象が現れる。この統計結果から、新聞報道とともに歩んだ70年代、開発事業による発掘調査件数が急上昇した80年代、新聞報道やや優勢の90年代といった様相が浮かび上がる。[1]

(3)市町村別統計　市町村別に掲載件数の統計をとってみると(表-2、図-3)、掲載年ごとの増減は見られるが大津市の件数が飛び抜けて多い。このことは大津京関連遺跡などの史跡や注目される遺跡が多いこと、また市街地、郊外の開発が継続的に行われていることを反映していると考えられる。同様に守山市も掲載件数が多く都市化傾向を示している。また、八日市市が89年に至って急激に件数が増加しているのは、雪野山古墳の発見と発掘調査の進展を追う報道によるものである。さらに、長浜市、草津市、野洲町、栗東町なども継続した報道が行われている。また、町では安土町が守山市に続いて報道件数が多い。このことは、安土城跡をはじめとして多くの著名な遺跡が集中している点があげられる。こうした傾向は、のちに述べるように市町村の普及啓発活動の動勢も反映しているようで興味深い。[2]

(4)掲載遺跡統計　遺跡別の掲載件数の統計からは(表-2、図-4)、雪野山古墳が57件と非常に多く、続いて穴太遺跡、粟津湖底遺跡などが続く。国および県指定の史跡は、前述したように安土城跡、大津京関連遺跡が代表的な例で、整備事業に伴い恒常的に紙上に登場する。ここで注目されるのは信楽町の宮町遺跡である。近年宮町遺跡は、担当者らの献身的な発掘調査の成果から、紫香楽宮跡の可能性が高くなってきており、調査の進展が注目される遺跡と考えられる。

検索結果から、大規模な発掘調査の先例となった守山市服部遺跡が32件、現在も調査が継続して実施されている長浜市鴨田遺跡が24件、木簡の出土で著名となった中主町湯ノ部遺跡20件、木製品の出土で知られる松原内湖遺跡が19件、さらに伊勢遺跡15件、神宮寺遺跡15件、米原町磯山城遺跡10件と続く。

(5)用語頻度統計　埋蔵文化財関連の新聞記事に登場する用語についてキーワードの頻度統計をおこなった(表-2)。遺跡の種類で多い「集落」81件がトップで、遺跡名そのものの「大津京」80

件、遺物名の「須恵器」68、考古学用語は、「竪穴式住居」、「方形周溝墓」がともに64件、「掘立柱建物」56件、「円墳」52件などの用語の頻度が高い。報道内容を正しく伝えるため考古学用語が使用されるべきであるが、難解な専門用語は一般読者の立場から避けるのが望ましい。また、一般的な用語への安易な置き換えや、意味不明の「造語」もしばしばみられる。[3]

一方遺跡の保護、保存、普及に関しての用語の頻度は低く、後に問題点のひとつとして取り上げるが、「保存」33件、「現地説明会」19件となっている。[4] ちなみに新聞記事の常套句である「最大 …」は72件、「最古 …」は36件であった。しかし、これらの語句が遺跡、遺構、遺物を形容した場合、即座に報道を鵜呑みにせず、正当で冷静な評価を待つ必要があることはいうまでもない。

(6)情報提供者　記事に関する情報の提供者は、県教委が 710件、市教委が 396件、町教委が325件となっており、その他は担当者や専門分野の研究者となっている。80年代半ばまでは、発掘調査の担当者の見解が直接掲載されたケースが多かったが、近年では教育委員会の発表がその多くを占め、公開する体制が整備されたことを反映している。

3．遺跡の発掘調査と公開に関する課題

(1)報道取材の方法　たとえばある遺跡の発掘調査が2年越しに終了し、遺構・遺物に関しても大学や研究機関の専門家から一定の評価を受け、近日報道が予定される現場を想定する。担当者は事前に資料を収集し、関連機関との日程調整もすませて準備し、報道機関からの取材を受ける。最近の報道ではこうした事前の準備がなされ各社の新聞の足並みが一応そろっている。

かつては遺跡の発掘調査の進行中に、特定の新聞社の取材により大ニュースとして紙上に載ることがあった。こうした例は県内外問わず多く見られ、情報の提供者側やその関係機関に少なからず迷惑を及ぼした。このことは文化財報道に限らず情報公開のあり方に問題点を残している。

(2)情報公開　文化財保護法4条2項のなかで、文化財の所有者、関係者は「文化財を公共のために大切に保存するとともに、できるだけこれを公開する等その文化的活用に努めなければならない。」と心構えを説いている。遺跡の発掘調査が終了した場合、得られた成果の公表がこれにあたり公開の義務が生じるといえる。

公開の方法については、新聞・雑誌・テレビ等による一般報道、広報や事業報告書等による行政の普及活動、学会誌など専門書物による研究活動など幅広い普及啓発の形態がある。しかしながら、前述した公開方法にはそれぞれ一長一短があり、情報伝達の正確さと即時性、公開対象の範囲などのバランスを欠いていることが多い。最良の公開手順は、調査において得られた成果について公正な手段で公表し、さらに遅滞なく報告書としてまとめ上げることである。

(3)遺跡の現地説明会　最善の公開方法として遺跡の現地説明会がある。対象は地域住民に重点がおかれるが、現地における説明会の開催は、地元への情報公開、歴史教育など生きた普及活動ができる格好の機会である。しかし、開発に伴う事前調査ではその時間的余裕や体制づくり、関連機関の理解などが必要とされ、いずれも担当者の負担が大きいことは事実である。そのせいか

遺跡の公開をはじめ現地説明会の開催が徐々に減じているのは残念である。

(4)保存と活用　開発に対して遺跡の保存が叫ばれ、遺跡が整備され十分に活用されている例が皆無とは言えないが非常に少ないのが現状である。実例は挙げないが、新聞報道などで「保存」の活字は見あたるが数年後実現している例は僅かである。しかしながら、指定史跡の整備事業はここ数年活発化し、再調査による新たな発見、復元工事の推進など活用面から一定の評価を得ていることは望ましい。また、発掘調査により出土した遺物資料なども徐々に整理され、各地域に設置されつつある博物館、資料館等の公開施設で展示活用される傾向にある。

まとめ

新聞記事データベースを作成するとともにこれを利用し、各視点から埋蔵文化財をとりまく25年間の情勢について概略を述べた。本稿では問題となった個々の報道記事については具体例を示し詳述しなかったが、統計分析からいわゆる「当世文化財事情」が浮かび上がり、遺跡の発掘調査と公開、さらに保存の問題といった次世紀に残す課題についてまとめることができた。

実際「新聞記事データベース」を利用し、切り抜き記事を検索していく過程で発掘調査の歴史をさかのぼり、過去に調査され消滅した遺跡からまだまだ多くのものを学ぶ機会があるということを実感した。とくに遺跡の発掘調査から得られた有形無形の成果の保護と活用の方策は、調査主体の当事者はもとより、各方面からの協力を得て社会へ積極的に還元するといった努力を忘れてはならない。文末ながら、長年にわたり文化財関連の新聞記事を選び、切り抜き、整理してこられた方々や、今回のデータベース作成と統計処理を助けていただいた方々に感謝したい。

参考資料

「埋蔵文化財関連報道記事」京都新聞478件、朝日新聞391件、毎日新聞367件、読売新聞265件
産経新聞88件、滋賀日々新聞72件、中日新聞53件,(1968～94年)
「埋蔵文化財保護の手引き」滋賀県教育委員会,昭和61年
「25年のねんりん」㈶滋賀県文化財保護協会,平成7年

註

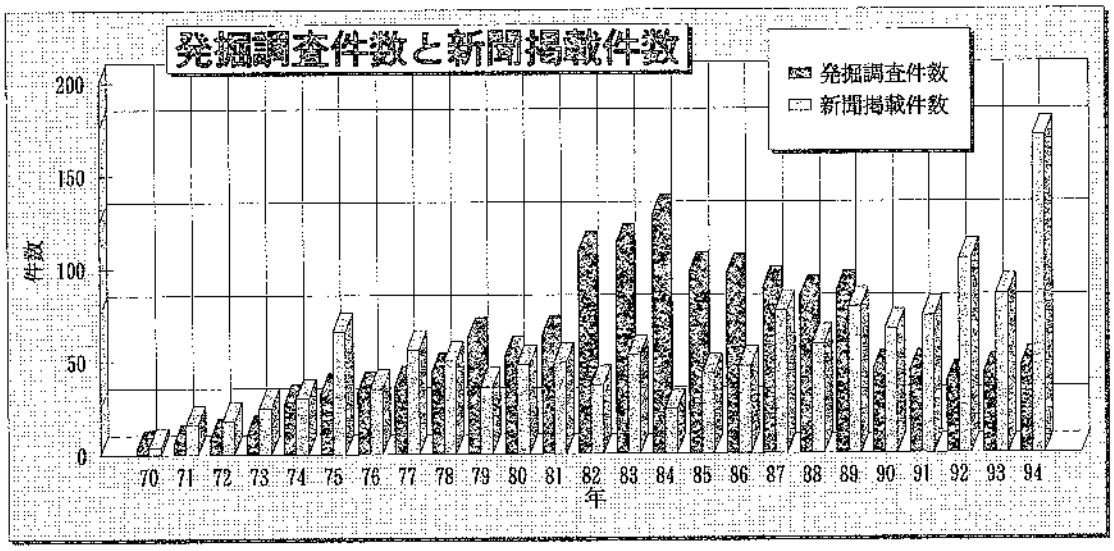
(1) 発掘調査件数については、上記参考資料「25年のねんりん」に集計されたもので、市町村主体の調査件数を含まない。

(2) 市町村別件数については遺跡が所在する市町村であって、当自治体が発掘調査の主体とは限らない。

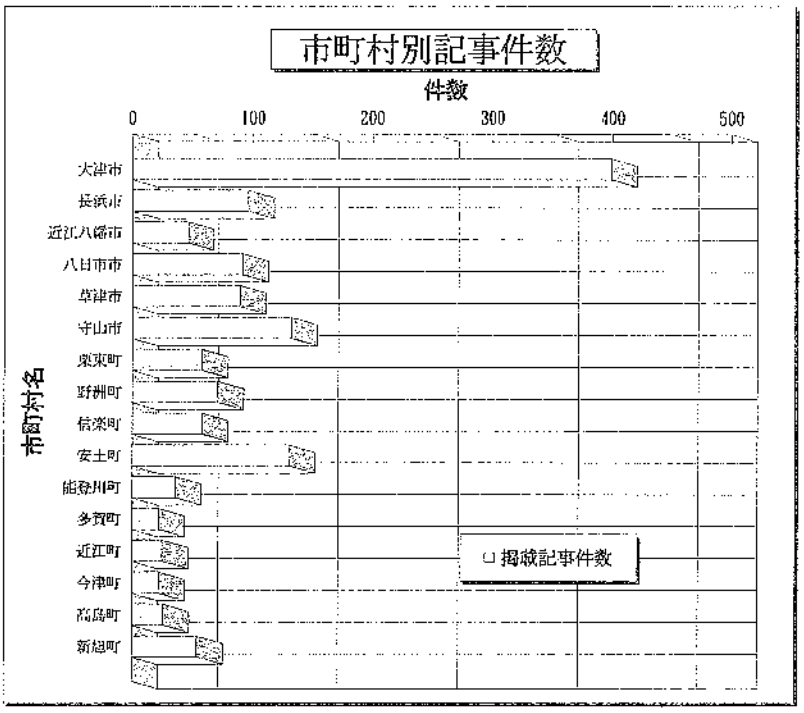
(3) 難解もしくは難読用語とは「斗瓦」＝のしがわら、「炮烙」＝ほうらく。また、意味不明の造語とは「剣菱型前方後円墳」など。

(4) 遺跡・遺構の保存の実例としては、1987年に「オンドル遺構の保存」として、現在大津市歴史博物館前に移築保存されている。また、現地説明会が開催された「雪野山古墳」では約2000人、「湯ノ部遺跡」では約500人にのぼる多数の見学者を迎えている。

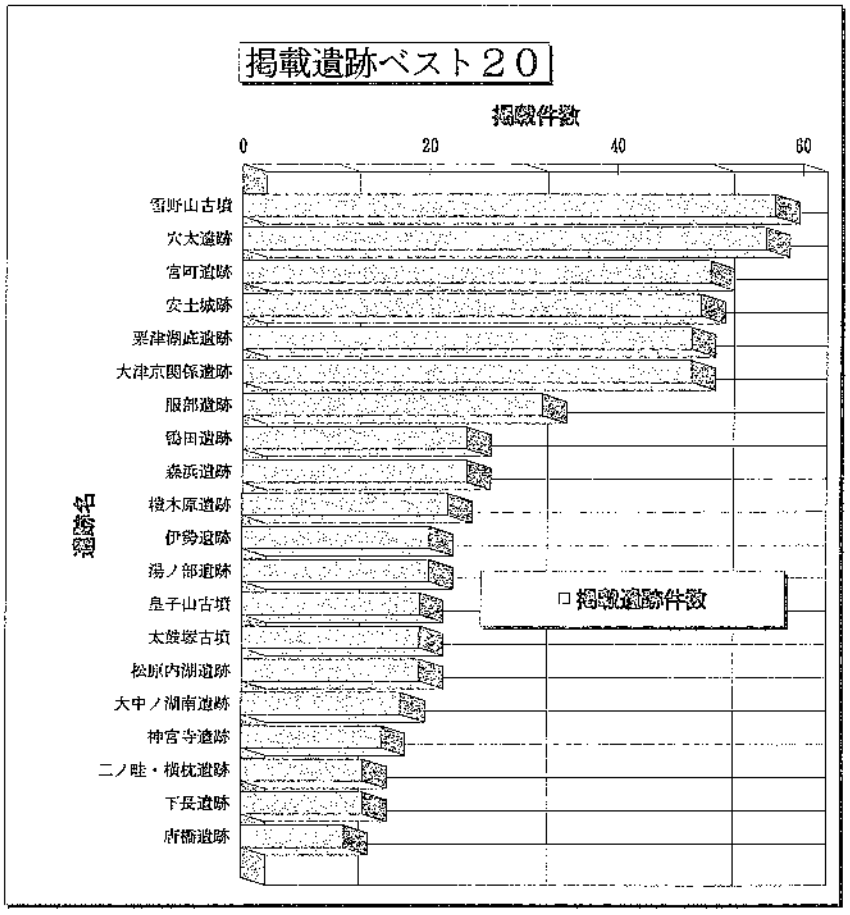
第1図　新聞記事データベース（サンプルイメージ）



第2図　掲載年別グラフ



第３図　市町村別グラフ



第４図　遺跡別グラフ

===滋賀県埋蔵文化財関連新聞記事データーベース===

検索語：紫香楽宮

件数：４２

登録No	出し・タイトル	副題・サブタイトル	新聞社	日付
840010	紫香楽宮復元へ始動	宮と関連？柱穴や柱根	毎日	840313
850023	紫香楽宮跡の可能性	宮殿級の柱根・柱穴発見	朝日	850402
860050	紫香楽宮跡を確認	史跡指定地の北１．５キロ	毎日	861010
860051	千二百年「歴史の根っこ」	稲穂の下に「天平ロマン」	毎日	861010
860052	「風格ある建物」「意外に質素」	「平城京ミニ都市」	毎日	861016
860056	本当の位置どこ？来月から本調査	ぜひ内裏・大安殿を期待して町自力で	朝日	861030
860066	「紫香楽宮」確定に期待	まず柱根出土周辺	京都	861122
860070	「紫香楽宮」発掘に新鋭機	正確な位置発見か	朝日	861130
860071	何が出る　地中の栄華「紫香楽宮」	レーダー探査始まる	京都	861203
860072	「紫香楽宮」はどこに	テレビに地中の状況	朝日	861203
860073	新兵器　地中レーダーも	本格調査始まる	毎日	861203
870004	紫香楽宮の蔵跡？出土	確認へ初の手がかり	京都	870128
870006	手がかり？柱穴確認	建物跡の可能性強い	朝日	870129
870036	木簡に王の名	奈良期の年号も	読売	870625
880015	奈良の大仏は紫香楽宮生まれ？	「素顔」出る可能性	毎日	880311
880050	「紫香楽宮」展始まる	―――	朝日	880910
880051	信楽焼のルーツは恭仁京？	出土瓦の紋様そっくり	読売	880910
880052	軒丸瓦など遺物百点	―――	京都	880915
890006	幻の紫香楽宮は宮町遺跡	続日本紀と一致	読売	890420
890007	宮殿級柱根見つかる	「紫香楽宮」強まる	朝日	890515
900006	宮殿クラスの大遺構	創建当時の柵列２条	京都	900119
900007	柵列や建物跡遺構見つかる	紫香楽宮と同期　強まった「宮跡」	朝日	900119
900008	平城京規模の官衙跡か	柵列、建物跡が出土	読売	900119
900009	宮殿級の建物か？	１４個の柱穴　４個の柱根	毎日	900119
910019	５０メートル以上も続く塀跡	間近い紫香楽宮の確認	朝日	910323
930053	出るか「紫香楽宮」断定の証拠	既に「状況証拠」は十分	毎日	930621
930103	紫香楽宮示す木簡出土	税の品を納めた荷札	京都	931230
930104	古代都市見えてきた	都の繁栄物語る	京都	931230
930105	「幻の宮」新証拠に興奮	「次ぎは建物跡発見」	読売	931230
930106	紫香楽宮跡　裏付け	＊＊＊	読売	931230
930107	「紫香楽宮」裏付ける？木簡	「続日本紀」と一致	朝日	931230
940070	「紫香楽宮」の中心施設か	天皇の居所・大安殿クラス	毎日	940618
940079	木簡に「皇后宮職」	紫香楽宮説を裏付け	京都	940630
940080	紫香楽宮跡ほぼ確実	建物跡や木簡出土	京都	940630
940081	大型建物含む官庁街跡	紫香楽宮の一部	朝日	940630
940139	紫香楽宮の実像に迫る	藤原豊成邸の復元模型も	毎日	941017
940177	学会論争にケリ	異例、史跡指定見直しへ	京都	941201
940178	「紫香楽宮」は宮町遺跡	「造大殿」の木簡層出土	朝日	941201
940179	長年の調査に光明	宮町遺跡の「大殿」木簡が証明	朝日	941201
940180	紫香楽宮の中心地確定	出土の木簡で裏付け	朝日	941201
940183	「造大殿所」の文字にどよめき	鈴木技師「やっとここまで」	毎日	941201
940184	紫香楽宮の中心部跡と確定	「造大殿所」表記の木簡出土	毎日	941201

表１　検索結果一覧

No	市町村	件数	No	遺跡名	件数	No	キーワード	件数
1	大津市	401	1	雪野山古墳	57	1	集落	81
2	守山市	132	2	宮町遺跡	50	2	大津宮	80
3	安土町	131	3	安土城跡	49	3	須恵器	68
4	長浜市	96	4	粟津湖底遺跡	43	4	竪穴式住居	64
5	八日市市	91	5	安土城考古博物館	39	5	方形周溝墓	64
6	草津市	89	6	服部遺跡	32	6	文字	59
7	野洲町	89	7	穴太遺跡	28	7	柱穴	57
8	彦根市	64	8	穴太廃寺	28	8	掘立柱建物	56
9	栗東町	58	9	鴨田遺跡	24	9	円墳	52
10	信楽町	58	10	森浜遺跡	24	10	復元	48
11	新旭町	57	11	檀木原遺跡	22	11	木簡	45
12	中主町	47	12	湯ノ部遺跡	20	12	祭祀	39
13	近江八幡市	46	13	松原内湖遺跡	19	13	複合遺跡	38
14	能登川町	36	14	太鼓塚古墳群	17	14	瓦	36
15	米原町	29	15	大中ノ湖南遺跡	17	15	横穴式石室	35
16	湖北町	28	16	伊勢遺跡	15	16	墨書土器	35
17	高島町	26	17	神宮寺遺跡	15	17	ヒノキ	34
18	近江町	25	18	錦織遺跡	14	18	土師器	34
19	多賀町	22	19	御所の内遺跡	14	19	紫香楽宮	33
20	蒲生町	22	20	野洲川河原	14	20	保存	33
21	今津町	22	21	下長遺跡	13	21	井戸	32
22	高月町	21	22	皇子が丘	13	22	官衙	31
23	甲西町	17	23	二ノ畦・横枕遺跡	13	23	倉庫	29
24	安曇川町	13	24	大津宮関連遺跡	12	24	土器	29
25	甲良町	12	25	北大津遺跡	12	25	渡来人	28
26	マキノ町	10	26	唐橋遺跡	11	26	丸木舟	27
27	虎姫町	10	27	木瓜原遺跡	11	27	登り窯	27
28	余呉町	10	28	磯山城遺跡	10	28	銅鐸	25
29	五個荘町	8	29	葛籠尾崎湖底遺跡	10	29	郡衙	24
30	秦荘町	7	30	正楽寺遺跡	10	30	史跡指定	24
31	日野町	7	31	岡田追分遺跡	9	31	住居	23
32	竜王町	6	32	下鉤遺跡	9	32	前方後円墳	23
33	水口町	6	33	鴨遺跡	9	33	礎石	23
34	愛知川町	5	34	建部瓦屋寺町	9	34	柱跡	23
35	山東町	5	35	坂本城	9	35	三角縁神獣鏡	22
36	朽木村	4	36	赤野井湾遺跡	9	36	人形	22
37	西浅井町	3	37	斗西遺跡	9	37	環濠集落	21
38	伊吹町	3	38	南市東遺跡	9	38	人骨	21
39	湖東町	3	39	岡遺跡	8	39	木棺	21
40	石部町	2	40	近江国衙跡	8	40	円筒埴輪	20
41	志賀町	2	41	森の内遺跡	8	41	製鉄	20
42	愛東町	2	42	中沢遺跡	8	42	現地説明会	19
43	木之本町	2	43	堂ノ上遺跡	8	43	工房	18
44	永源寺町	2	44	箕作山	8	44	大手道	18
45	甲賀町	1	45	和田古墳群	8	45	石垣	17
46	甲南町	1	46	安城寺遺跡	7	46	足跡化石	17
47	浅井町	1	47	越前塚遺跡	7	47	続日本紀	17
			48	古琵琶湖層群調査	7	48	高杯	16
			49	狐塚	7	49	寺院	16
			50	桜内遺跡	7	50	西大津バイパス	16
					合計件数			1714

表2　掲載件数

編集後記

この冬は、久しぶりに雪の多い年となり、外での調査では寒さに堪える日々を過ごされたことと思います。今年は当協会設立25周年にあたり、日頃の調査や普及活動に加え、安土城考古博物館で、企画展示『いにしえの渡りびと－近江の渡来文化－』や、それと関連したシンポジュームを実施してまいりました。本紀要も25周年ということで、例年にくらべて多くの論考が集まりました。つきましては、多くの方からのご叱正とご指導を賜れば幸いです。　　平成８年３月

平成８年３月

紀　要　第９号

編集・発行　財団法人　滋賀県文化財保護協会
大津市瀬田南大萱町1732-2
Tel(0775)48-9780・9781

印刷・製本　富士出版印刷株式会社
大津市札の辻４－20
Tel(0775)23-2580 Fax(0775)24-6668